平成２８年５月 経営協議会議事録

Ⅰ．日　時　　平成２８年５月１９日（木）　１４時００分～１６時２３分

Ⅱ．場　所　　千葉大学けやき会館　レセプションホール（３階）

Ⅲ．出席者　　徳久学長、有馬、犬養、香藤、河田、黒木、島田、銭谷、西堀、萩原、
　　舩橋、正宗、宮坂
　　中谷、渡邉、松元、安村、猿渡、山田、酒井、金原、宮﨑、山本　各委員

　　ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　桑古監事
　　（欠席者：加賀見、武藤、堀　各委員）

　議事に先立ち、新たに学外委員に就任された萩原　博委員及び宮坂信之委員並びに学内委員に就任された山田　賢委員の紹介があった。

Ⅳ．前回審議議事録について
　原案のとおり承認された。

Ⅴ．審議事項
１．研究業績説明書（案）について
　中谷理事から、５月末に大学改革支援・学位授与機構へ提出する研究業績説明書の概要について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

２．平成２９年度概算要求の状況について
　中谷理事から、第３期中期目標期間における機能強化への取組について、資料に基づき説明があった後、松元理事からグローバルプロミネント研究基幹について、渡邉理事から国際未来教育基幹について、それぞれ説明があった。
　続いて、中谷理事から、平成２９年度の概算要求に掲げている事項について、資料に基づき説明があった後、猿渡理事から、平成２９年度の施設整備費要求の主な事項について、資料に基づき説明があった。
　引き続き、学長から、本概算要求の内容については確定ではなく、現在も打合せ中である旨説明があった。

Ⅵ．報告事項（◎学外委員、○学内委員）
１．中期目標の達成状況報告書（素案）等について
　中谷理事から、６月末に国立大学法人評価委員会へ提出する「平成２７事業年度に係る業務の実績及び第２期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書」、及び大学改革支援・学位授与機構へ提出する「中期目標の達成状況報告書」「現況調査表（教育）」「現況調査表（研究）」について、資料に基づき報告があった。

２．平成２７事業年度財務諸表（案）等について
　猿渡理事から、財務諸表（案）及び決算報告書（案）について、資料に基づき報告があった。
　主な意見は以下のとおり。
◎　教育経費が、前年度比△6.8％となっているが、現場での教育に関する影響はど

うであったか。

○　厳しいことは確かだが、プロジェクトについては減額されることを見据えながら実施しているため、それ程の影響はないと考えている。特に、全学の教育については、きちんと実施しているところである。

◎　国際教養学部設置に伴い、かなりの予算措置が必要だったのではないか。

○　通常の教育経費は、学内予算で措置し、教室等の整備については、支障のない形で順次行う計画を立てている。

◎　電子ジャーナルの費用は、十分賄われているか。

○　相変わらず値上げが続いている状況にはあるが、各部局に負担してもらう額を平成２７年度の額で固定し、不足する部分については全学経費で賄う予定である。

◎　科研費間接経費収入が△31.3％であるが、その原因は何か。

○　これについては、おって確認する。

◎　財務諸表には関係のない話だが、志願者数が国立大学１位であるとか、学生の海外派遣数が国立大学で３年連続１位ということは、すばらしいことなので、法人評価等においてもっとアピールした方がよい。

◎　このたび、学長選考会議において「求められる学長像」を策定したが、その中に『人間・社会・自然についての広い教養と深い専門知識を持ち、チャレンジ精神に富む、たくましい学生を社会に送り出すための教育と教育環境整備を実行すること。』とあるので、そのような学生を育てるために、積極的に留学させるなど考えていただきたい。

◎　大学院への飛び入学やターム制の導入、また、国際教養学部を設置しグローバル人材の育成を試みているので、千葉大学の特色としてアピールするべきではないか。

◎　育志賞の２年連続受賞などももっと宣伝するなど、戦略的に広報した方がよいのではないか。

◎　「トビタテ！留学 JAPAN」のプロジェクトでも、学生が最優秀賞を受賞しており、すばらしいことである。

◎　学生が海外留学で得た経験を共有する場、再認識にする場を学生に与えることにより、大学の宣伝にも繋がるのではないか。

３．平成２８年度長期運用の購入結果について

猿渡理事から、平成２８年度の長期運用の購入結果について、資料に基づき報告があった。

引き続き、国立大学法人法の一部改正について、文部科学大臣の認定を受けた国立大学法人等に関しては、公的資金に当たらない寄附金等の自己収入の運用対象範囲を、一定の範囲で、より収益性の高い金融商品に拡大することができること等に関し、平成２９年４月１日から施行される旨、資料に基づき説明があった。

続いて、学長から、本学においても、２０年公債を購入した３億円を活用し、より収益性の高い金融商品を購入したい旨提案があった。

主な意見は、次のとおり。

◎　２０億円の長期運用資産をどう運用するかということについて、千葉大学には専門家がいる訳ではないこと、また、金額的にも大きい訳ではないことから、無理にリスクを取る必要がないのではないか。

海外では、運用額のケタが違うこと、また、資産・負債両方をコントロールしている。

ちなみに、私大では、リスクの高い商品に手を出し、失敗している例もある。

長期運用利回りが 0.93%というのは立派だと思うので、この利回りが維持できるのであれば、今のままの運用の方がいいのではないか。

◎　専門家がいない中で、もし損失を出したら、大学や学長自体の評価に繋がるので、リスクを取る必要はない。

損益計算書を見ても、受託事業費と寄附金を増やすことの方が先決である。

◎　資金運用は、千葉大学の本業とすべき分野ではないことから、余分なリソース・時間・努力をかけるべきではない。

◎　反対論が多いのは分かるが、他にも考えることはたくさんある。例えば、資料に「土地等を第三者に貸し付けることができる」とあるが、千葉大学は駅直結のような立地条件にあるので、地の利を生かし、地域の県・市と連携しながら間接的に収益を得るなど、どのような活用方法があるかを検討することも必要である。３億円をどうするかということから少し離れて、千葉大学が持っている資産をどう活用するかということを考えた方がよいのではないか。

◎　これでいくら儲けるかということより、取り得る最大のリスクをどこまで取れるのかということが大切である。ポリシーがあって、こうやるんだというものがあればよいが、100 万や 200 万の小遣い稼ぎのためにやるのはいかがなものか。

◎　国立大学が独立行政法人になったということは、最高の教育機関としての実勢を維持するためであると考える。何と言っても教育機関なのだから、資産運用のことを考える必要はない。

◎　失敗はあり得る。覚悟があって大学としてやるのであればよいが、小遣い稼ぎ的な感覚であれば、やらない方がよい。ただ、資産の運用は必要ないという訳ではなく、大学の研究も生かした大学のビジネスというものができないものかと考えている。千葉大学は総合大学で、ユニークな園芸学部もあるので、近畿大学のマグロのように、ビジネスとして大学の存在感を示すことも考えられる。国立大学がどこまでできるか分からないが、千葉大学はもっといろいろなことができると思うので、そういう部分の投資ということを考えたらよいのではないか。

４．平成２７年度資金運用実績報告について
　猿渡理事から、平成２７年度の資金運用実績について、資料に基づき報告があった。

５．平成２８年度千葉大学入学状況等について
　渡邉理事から、平成２８年度学部・大学院の入学状況等について、資料に基づき報告があった。

６．国立大学法人千葉大学学長の任期について
　中谷理事から、学長の任期について、資料に基づき報告があった。

７．その他
①平成２８年度科学研究費助成事業の応募・採択状況等について
　松元理事から、平成２８年度科学研究費助成事業の応募・採択状況及び交付内定状況の速報、並びに共同研究、受託研究及び奨学寄附金の受入実績について、資料に基づき報告があった。

②国際教養学部の進捗状況について
　高垣副学長（国際教養学部副学部長）から、国際教養学部の進捗状況について、資料に基づき報告があった。

③定年退職教員の研究活動に関するガイドラインについて
　中谷理事から、定年退職教員の研究活動に関するガイドラインについて、報告があった。

④今年度の開催予定について
　田中総務課長から、今年度の開催予定について、資料に基づき報告があり、併せて、書面審議の予定について説明があった。

以上